平成２８年度　発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
（通級による指導担当教員等専門性充実事業）
成果報告書（概要版）

実施機関名（　京都市教育委員会　）

1. テーマ

通級指導担当教員等の特別支援教育の専門性向上及び適切なアセスメント実施による通級指導開始時の目標設定と評価，指導方法，通常学級の担任との連携についての研究

2. 問題意識・提案背景

京都市においては，通常の学級に在籍し，通級による指導を受けている児童生徒が平成 19 年には 101 人（5 月 1 日時点）であったが，平成 27 年に 590 人（5 月 1 日時点）と 5.8 倍になっており，LD 等通級指導教室についても，直近 3 年で 2 倍弱（35 教室→67 教室）に増やしており，特別な支援を必要とする児童生徒を含むすべての児童生徒への指導・支援の充実を図っている。このように，LD 等支援の必要な児童生徒が年々増加しているため，本市では通級指導教室の拡充に努めている状況の下，通級による指導開始時における目標設定や適切な評価の在り方，通級による指導における発達障害の状態に応じた各教科の内容を補充するための特別の指導方法の実施などの適切な通級指導の在り方及び通級指導教室担当教員の専門性を充実させることが喫緊の課題であると考えている。そのため，「通級指導担当教員等専門性充実事業」で重点的に取り組んだ。

3. 目的・目標

拠点校の通級指導担当教員の専門性を向上させるだけでなく，他校の教員等も含めて，全市で 50 名程度の特別支援教育の専門性を向上させ，特別支援教育の中核的な職務を担える教員を養成する。また，適切なアセスメントを実施することによる指導開始時の目標の設定と評価，指導方法の研究を進め，更に，本市通級制度の特性を活かした通常の学級の担任との連携手法についても検討していくことを目的とした。

4. 主な成果

・教育委員会において，LD 等通級指導教室の担当指導主事を配置し，定期的に拠点校他通級指導教室設置校の訪問，ケース会議等への参加を通して，指導・助言を行った。
・定期的に本事業の報告・連絡会の場を設け，教育委員会の各部署並びに専門家から助言・講評を得ることにより，教育委員会と拠点校が今後の課題・目標を共有化し，取組に活かすことができた。
・教育委員会主催の研修として，本市の特別支援教育の中核的役割を担う高い専門性を持つ教員の育成講座「総合育成支援教育マスターコース」を実施し，拠点校及び他校の約 50 名の教員が受講。

・LD 等通級指導担当者向けに，各種アセスメントや ICT に関する通級指導の専門性向上を目指す研修を実施。

5. 通級による指導における専門性のポイント

・目の前の児童・生徒の得意・不得意を把握し，その要因を的確にアセスメントし，効果的な指導・支援に取り組める力。
・保護者・自校の教職員のみならず，外部機関や巡回校の教員とも連携を深め，つないでいくことができる力。
・特別支援教育の理解・促進を，自校のみならず，外部にも広げていける力。

6. 拠点校における取組概要

①通級による指導開始時における目標の設定及び適切な評価の在り方の研究
・ケース会議で目標を明確にすることで，共通理解を図った。
・前期，中期，後期に関係者間でスモールステップに分けて評価を行った。
・入級の際に，フォーマルアセスメントを活用した実態把握を行うことで，児童の目標設定に役立てたり，アプローチすべき点が明確になったりした。
②通級による指導の担当教員が通常の学級の担任との連携を深化させるための専門性の在り方の研究
・巡回校においても，通級指導担当教員がケース会議や個人懇談会に参加し，在籍学級でできる支援について，学校と保護者が共通理解を図れるようパイプ役として繋げることができた。
・集団式のフォーマルアセスメントを実施し，児童の実態把握を行い通常学級における支援につなげた。
・在籍学級において，アセスメントに基づく指導・支援を学級担任と共に考えて実施した。
③発達障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導方法の研究
・発達障害者支援センター等の外部専門機関と連携を図り，ケース会議を行った。
・タブレット端末など ICT 機器を積極的に導入した。
・各種フォーマルアセスメントで分かったつまずきに合わせて指導を実施し，その情報を個別の指導計画に反映させ，在籍学級の担任と共通理解を図った。
・外部専門家によるコンサルテーションを定期的に実施し，専門的知見からの実態把握を行った。
・在籍学級で使用できそうな支援グッズを試した。
④通級による指導における発達障害の状態に応じた各教科の内容を補充するための特別の指導方法の研究
・在籍学級の担任と話し合い，各教科の内容を通級指導内容に適宜反映させた。
・タブレット端末の各種アプリの活用により，視覚的に把握できる機会を増やし，内容理解に役立てた。
・多層指導モデル MIM などを利用し，読字書字に対しては，早期から対応する体制の構築を始めることができた。
・算数のデジタル教科書を活用し，本人の学習意欲の向上に役立てた。

・指導方法・内容は，個別の指導計画に記載して，学級担任や保護者と共通理解を図った。

7. 今後の課題と対応

・初期に設定した目標を達成しても，在籍学級だけでは支援しきれない課題が残る場合があり，なかなか通級指導を終了しにくいケースがある。
・タブレット端末を通級指導教室で活用することで，トレーニングや本人の学習意欲の向上など大いに役立つことがわかったが，どの在籍学級でも自由に活用できる環境が整っているわけではないことが課題である。
・読字・書字の困りに対して，2 年生だけではなく，全学年でアセスメントしていく必要性を感じたが，その後の指導を考えると時間確保が困難である。
・児童・生徒の困りに合わせた適切なアセスメントを実施して，効果的な指導・支援に結び付けていく教員の専門性と環境が必要だと感じた。

8. 拠点校について

拠点校名：京都市立久世西小学校

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	117	4	112	4	108	3	113	4	102	3	93	3
特別支援学級			2		1						4	
通級による指導（対象者数）	4		3		3		3		3		2	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	26	1	5	2	1	1	1		5	44

※特別支援学級の対象としている障害種：知的，自閉症・情緒
※通級による指導の対象としている障害種：自閉症，情緒障害，学習障害，注意欠陥多動性障害

拠点校名：京都市立醍醐西小学校

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	28	1	35	2	34	1	44	2	39	1	35	1
特別支援学級					1		1		2		1	
通級による指導（対象者数）	1		1		1		2		4		3	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	15	1	6	1	1	2	1		4	33

※特別支援学級の対象としている障害種：知的，自閉症・情緒，肢体
※通級による指導の対象としている障害種：自閉症，情緒障害，学習障害，注意欠陥多動性障害

拠点校名：京都市立南太秦小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	49	2	47	2	50	2	46	2	37	1	69	2
特別支援学級			2				1		1			
通級による指導（対象者数）	2		1				1		1		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	14	1	3	1	1	1	1		5	29

※特別支援学級の対象としている障害種：知的，自閉症・情緒，肢体

※通級による指導の対象としている障害種：自閉症，情緒障害，学習障害，注意欠陥多動性障害

9. 問い合わせ先

組織名：京都市

(1) 担当部署　京都市教育委員会指導部総合育成支援課

(2) 所在地　京都市下京区河原町松原上る２丁目富永町３４４

(3) 電話番号　０７５-３５２-２２８５

(4) FAX 番号　０７５-３５２-２３０５

(5) メールアドレス　y-ikusei@edu.city.kyoto.jp